

# 第14回錯視・錯聴コンテスト 「カニ歩き錯視」

## 応募者

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程1年 後藤 慶多  
慶應義塾大学環境情報学部4年 小林 莉子  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程3年 綾瀬 泉  
慶應義塾大学環境情報学部専任講師 森 将輝



## 連絡先

森 将輝 (morima\_sfc.keio.ac.jp) \_を@に変えてください

## 作品タイトル

カニ歩き錯視

## 解説

一般的に、多くのカニは横歩きで移動します。

動画A~Eのカニはどの方向に歩いているように見えるでしょうか？ ※大画面モニターでの視聴を推奨します。

### 1. 動画A

多数のカニを縦（上から下）と斜め（右上から左下）から同時に歩かせてみる。

→縦に歩いているカニに注意を向けると、斜めに歩くカニが真横に向かって歩いているように見える。

→斜めに歩いているカニに注意を向けると、縦に歩くカニが右斜め下に向かって歩いているように見える。

### 2. 動画B

多数のカニを縦と横から歩かせてみる。

→縦に歩いているカニに注意を向けると、横に歩くカニが左斜め上に向かって歩いているように見える。

→横に歩いているカニに注意を向けると、縦に歩くカニが右斜め下に向かって歩いているように見える。

### 3. 動画C

多数のカニを斜めと横から歩かせてみる。

→斜めに歩いているカニに注意を向けると、横に歩くカニが左斜め上に向かって歩いているように見える。

→横に歩いているカニに注意を向けると、斜めに歩くカニが斜めに向かって歩いているように見える（この条件は錯視が生じない）。

### 4. 動画D

映像提示領域を狭くすると錯視量が小さくなる。

### 5. 動画E

コントラスト比が低くなると錯視量が小さくなる。

### 6. 動画F

カニをドットに変えても錯視が生じる。

## 意義

絵本や日常生活で馴染みある生物「カニ」で表現することで、運動視に関する錯視を多くの人が楽しむ機会となることを期待しています。

カニ歩き錯視は、多重表面知覚や運動透明視と異なる見えが生じている可能性があると考えています。多重表面知覚を研究する際に用いられる視覚刺激は、デモンストレーションでも用いられているように（北岡, 2021），運動方向が異なる2つのランダムドット・キネマトグラムが提示される点において、カニ歩き錯視と同じものです。ただし、多重表面知覚は、20インチ程度のモニターで観察される場合に知られる現象が多く存在します。それに対し、カニ歩き錯視は、30インチ以上（例えば、65インチのテレビ）の大画面モニターを用いた場合に生じやすい現象です。カニ歩き錯視は、頭部を横に傾けると見え方が変わる点も興味深いと考えています。

## 参考文献

1. 北岡 明佳 (2021). Motion transparency 北岡明佳の錯視のページ. (2022年9月24日閲覧)  
[http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/JavaScript-motion\\_transparency01b.html](http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/JavaScript-motion_transparency01b.html)
2. 渡部 修 (2005). 運動透明視とその脳内表現 *VISION*, 17(1), 39-48.  
[https://doi.org/10.24636/vision.17.1\\_39](https://doi.org/10.24636/vision.17.1_39)